

昭和々大家政 村井不二子 ○後藤 子子

昭和々短大 安蔵 裕子

目的 明治期の洋装導入の資料は少なく、実物を通しての当時の普及状態、縫製技術などの実態もきわめ難い。これら数少ない実物資料の実測調査は、洋装史研究の基礎をなすものであり、更にその周辺の調査はわが国衣生活変遷を物語ると考へる。ここに滋賀県彦根郡の小林家所蔵の洋装資料について、実測テーマを中心に研究を進めるものである。オ五報において、日本近代化を背景に、小林家の足跡と、現存する洋服と、当時の改米服飾と関連して考へた。

方法 小林家及びその他の文献資料を中心に事蹟を明らかにし、多数の洋服及び付属品入手の経路にふれ、実物資料の種類、型、材料などについて考へた。

結果 幕末期に丁吟の家号で知られる近江の丁字屋小林家は、考根藩の御用商人として重きをなした。明治20年、先進改米各国の経済、産業、工業状況などを見聞するたのみに、農商務省の企画で当時の財界人のなかから視察団が派遣された。一行は約半年間の向、アメリカ、イギリスなどを廻つて各種の情報を集め、帰国後各界に多大の影響を及ぼしたと見られる。丁字屋四代目吟右衛門はその一行に加わり、視察の傍ら洋服、付属品、家具、食器等を多数購入した。本報は男子服のラベルに調製洋服店の所在地、店名が織り込まれたもの、ボタンに店名が刻印されたもの、ラベルはなにか素材、縫製等から明らかに外国製と推察出来るもの、国内一流洋服店製などについてその特質を明らかに出来た。